

インターン体験記

2019年2月～3月末の1か月半、インターンとしてMaWaSU2プロジェクトにお世話になりました。

インターンシップでは主に、OJTへの同行、翻訳作業、Facebook記事執筆、浄水場やチナイモトレーニングセンター見学のほか、他プロジェクトサイト(廃棄物処理場)訪問や地方出張への同行などを通して様々な角度からラオスの開発、技術協力について学ぶことができました。その中で、私が感じたことは大きく3つあります。



Ms. Naho CHUJO

(Waseda University, Faculty of Engineering)

Field of expertise: Environmental Engineering

Working period: 12/Feb./2019 - 31/Mar./2019

I study environment and resources in my university. I'm interested in the field of water supply. I'd like to know and understand how JICA and experts works on the capacity development.

①信頼関係を築くのが第一であること

技術協力は人が相手であり、こちらがいくら丁寧に教えても、彼ら自身がやってくれなければ成功しません。だからこそ相手と信頼関係を築く必要があります。そのために相手側の事情を知り、そのうえで歩み寄ろうとしないといけません。

例えば、社会主義国であるラオスでは、人民革命党のことが最優先事項です。突然C/PがOJTを欠席し党の会議に行ってしまう、専門家は何もできないといったことが以前はしばしばあったそうです。しかし今は彼らにとってどれだけ党のことが重要かを理解し、スケジュールを調整することでうまく仕事を進めていました。あくまでその国やそこに生きる人たちの事情を考慮し、柔軟に対応することが大事なのだと学びました。

また、同じ時間を共有することも信頼関係を築くのに重要な役割を果たしていました。地方出張時は特に、C/PのみなさんはOJTの後に飲み会を開いて歓迎してくれます。それらにも参加しながら、同じものを食べ、同じお酒を飲み、歌い、踊り、同じ時間を共有することで信頼関係がより強固になっていくのだと理解しました。

体験記 by Pictures



1. 大好きなカオニャウとラオス料理



2. 廃棄物最終処分場のゴミ山

②人材育成(CB)の難しさ

人材育成とは、一般的にも難しいことです。しかし、MaWaSU2では特に「C/P自身ができるようになること」を重視しており、そのために専門家の方々が様々な工夫をしているのが分かりました。5カ年のこのプロジェクトでは、2～3年は技術基準など様々なモノの作成、制定、設立などを行い、残りの2年間はその成果物を使用してC/Pが実際に水道事業を運営していくサポート期間に充てています。実情、そのような目に見える「成果物」を作っただけでプロジェクトを終え、その後現地の人たちは結局使い方が分からないままになる事例も多い中、この計画設定の仕方には、本気で彼ら自身ができるようになること、作って終わりではない本当に成果のある支援を目指しているのだなということを感じました。

③国創りについて

今まさに、この先何十年続くラオスの水道事業の基盤を作っています。

ラオスは日本の40年前と言われていますが、戦後の日本の水道事業を良くしていくために頑張っていた人たちも、こんな風に国のために試行錯誤を繰り返していたのだろうか、白熱した議論を交わすC/Pたちの姿を通して、40年前の日本を見ているかのような気になりました。私たちが今日本中どこでも蛇口から安心して直接水が飲めるのも、そうした先人がいたからなのだ、より実感をこめて思えます。

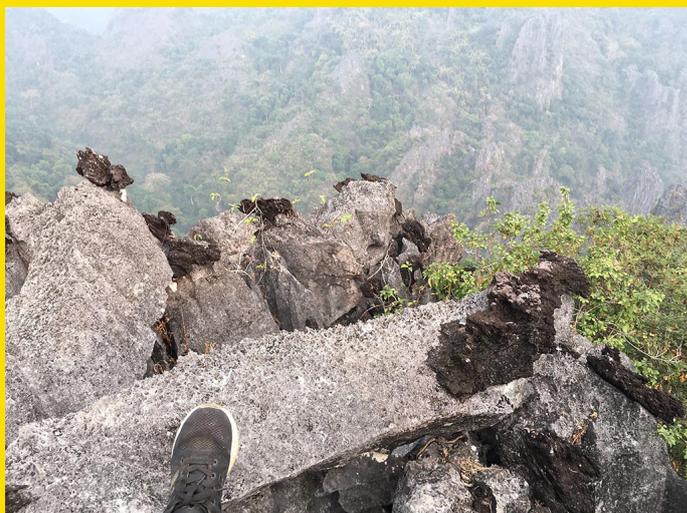
途上国に来て日本の過去を見るという不思議な体験でしたが、しかしこれこそまさに「発展途上」国の意味であり、その発展、国創りという大きな仕事に関われる面白さなのだと感じました。



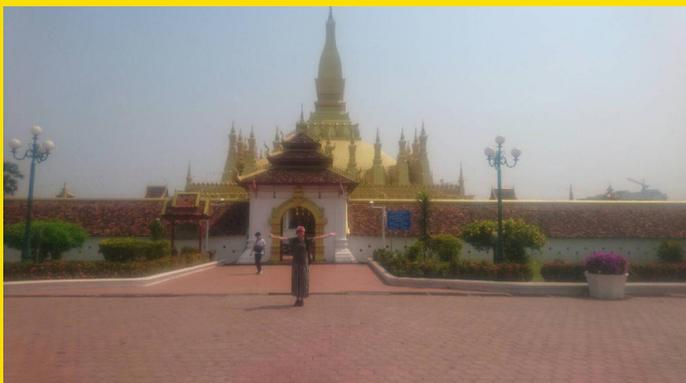
3. メコン川に沈む夕日



4. ホアイホン職業訓練センターにて織物体験



5. バンビエンで登山したときの山頂にて



6. タートルアンにて

この1か月半を通して一番感じたのは、どんな仕事も結局は人対人であるということです。国際協力事業であろうと日本側も相手側も対等な仕事相手であり、MaWaSU2のみなさんは特にそのことをとても大切にしていました。私も、将来国際協力に携わる時にはその姿勢を忘れずにいたいと思います。

最後に、お忙しい中1か月半もの間インターンとして温かく受け入れてくださった専門家の方々、貴重な機会を提供していただいたJICAやJICAラオス事務所のみなさま、関わって下さったみなさまに心よりお礼申し上げます。皆様のおかげで非常に充実したインターンシップとなりました。本当にありがとうございました。